「人生１００年時代を生きるための学びについて」

（答申）

令和７年３月 13 日

令和５・６年度 掛川市社会教育委員会

目　　次

はじめに …… 2
Ⅰ　諮問（研究テーマ）について …… 3
Ⅱ　地域社会を取り巻く背景 …… 4
　１　小・中学校における３つの創る力「創像力・創合力・創律力」の育成 … 4
　２　社会教育の裾野の広がり …… 5
　３　自治体施策の見直し …… 6
Ⅲ　「学び」についての掛川市の地域社会の現状と課題 …… 8
　１　社会教育委員の意見 …… 8
　２　社会教育委員の事例研究　　先進事例にみる創意工夫 …… 10
　　（１）事例１　富士市松野地区まちづくり協議会 …… 10
　　（２）事例２　人生卒論活動　学校と連携した生涯学習の実践の試み …… 11
　　（３）事例３　杉並区立社会教育センター　すぎなみ大人塾 …… 12
　　（４）事例４　磐田市市民活動センター・磐田市自治デザイン課 …… 14
Ⅳ　「人生１００年時代を生きるための学び」が充実するためのポイント …… 15
　１　ウェルビーイングに向けた『シン・生涯学習』 …… 15
　２　学びの循環を意識する …… 16
　　（１）多重のつながり …… 16
　　（２）学びの循環 …… 17
　　（３）一人一人の成長、交流の活性化 …… 17
　　①　一人一人の成長、個人の学びの循環 …… 17
　　②　交流の活性化その１、団体の活性化の循環 …… 19
　　③　交流の活性化その２、団体間の活性化の循環 …… 20
Ⅴ　「人生１００年時代を生きるための学び」を充実するための提言 …… 21
　１　学ぶこと、気付くことは、楽しいこと。まちは学びにあふれている。 …… 21
　２　つながりづくり、人づくりで、幸せづくりを …… 22
　３　みんなの学びが、みんなの幸せに …… 22
おわりに …… 23
掛川市社会教育委員会活動報告（令和５・６年度） …… 24
掛川市社会教育委員名簿 …… 28

はじめに

これまで、掛川市社会教育委員会では、「家庭教育力の向上と支援」（平成 27～30 年度）「地域学校協働活動の充実」（令和元・2 年度）」をそれぞれテーマとした提言をし、令和３・４年度は「持続可能なまちづくりに向けた『つながり』づくりの活性化について」の調査・研究を進め、その成果を答申しました。

令和５・６年度は、掛川市教育委員会から『人生１００年時代を生きるための学びについて』の諮問を受け、その選定理由の中に「掛川市社会教育委員会流の、生涯学習の捉え直しや再定義、近年の映画の表現を借りるなら『シン・生涯学習』となるものについて調査研究をお願いします。」とあります。

平成 19 年 12 月、掛川市議会は掛川市生涯学習都市宣言を決議しました。掛川市の生涯学習は、一生涯を通じ学習機会をもつことにとどまらず、学習をしつつ、さらに学んだことを人づくり・まちづくりにいかそうとするものと位置づけられました。

厚生労働省の調べによると、最新の日本人の平均寿命は、新型コロナ感染症による影響が少なくなり、2023 年の段階で、男性が 81.09 歳、女性が 87.14 歳。現在のペースで伸び続けると、100 歳を超えるまで生きるのもそんなに珍しいことではなくなりそうです。そうなると、「学び」の期間がさらに長くなることも当然です。当委員会では「学び」続けるための「学び」を広くとらえ、個人や団体の「学び」の循環が充実への道筋と捉えました。

本答申『Ⅳ 人生１００年時代を生きるための学び」が充実するためのポイント』の『２テーマ実現のための柱』の中で、学びの循環を形成するつながりとして「血縁」「地縁」「志縁」を示しています。

「血縁」のイメージは、幼いころ両親から口うるさくいわれたこと（挨拶や躾など）が、その当時は何気なしに反発していたものの、大人になるにつれて、その言葉がよみがえり実行につながるものです。また、農作業に挑戦してみると、昔の両親の姿がよみがえり、作業の方法や手順が、目に焼き付いていた遠い記憶の「学び」が今の実践につながることもあります。

「地縁」のイメージは、前回の答申で示した「つながりの再構築」そのものです。生活をしていると、地域の方々との「つながり」が必要不可欠なものとなり、生きた「学び」が生まれてくることです。例えば、庭いじりや野菜作りなどをしていると、地域にはたくさんの先生が存在し、助言や手助けをしてくれます。日常生活のつながりが「学び」となります。

「志縁」のイメージの最たるものは趣味の世界です。趣味だからこそ、それを極めたくなり、ＳＮＳ等が発達した今では、同じ趣味を持つ仲間といつでも、どこでもすぐにつながることができます。趣味を極めるためのコツの「学び」は、実践に活かされ、成果は達成感につながり、それを発信し共有することもできます。つまり「学び」の循環は、自分にとっても仲間にとっても至福となります。

このように、背伸びすることなく、楽しんで「学ぶ」ことができれば、その「学び」はずっと続けることができるのではないでしょうか。

今回の答申が、人生１００年時代を生きるための学びの一助となれば幸いです。

社会教育委員長　金原　義明

Ⅰ　諮問（研究テーマ）について

『人生１００年時代を生きるための学びについて』

当委員会は、掛川市教育委員会から上記テーマについて諮問を受け、令和５～６年度の２か年にわたり調査研究を行いました。

研究テーマの選定理由（掛川市教育委員会）

市内では、行政やスポーツ・文化団体、自治区、地区まちづくり協議会、ＮＰＯ等、多くの主体が、講座やサロン、イベント等を開催しています。こうした場の交流の中で、教えたり教えられたり、学んだり発表したり等の循環がなされ、趣味を楽しむ機会、仲間や居場所づくりの機会、人の役に立つ機会となっています。学びの場、学びの機会とも言えるでしょう。

しかし、令和５年７月発表の掛川市民意識調査では、生涯学習活動の参加率は、前年度比で微増したものの、約３割に止まっています（「参加している」「どちらかというとしている」の回答者　令和４年度 28.4%→令和５年度 30.9%）。背景には、個々の機会を全体的に見ると、全世代に対応していなかったり、学びのニーズに十分応えられていない分野があること等の理由が考えられます。

また、個人の学びのニーズに応えて、知識・技能をキャリアアップするリカレント教育が、近年注目されています。人生 100 年時代の中、ニーズが伸びていくことでしょう。

持続可能で未来に向けてチャレンジできる社会を目指す中、学びの場、学びの機会を全体的に発展させていく取組が必要です。

楽しむことを含め、学びの活動を充実させていくためには、より効果的に学びを進められる仕組みが必要と思われます。例えば、数多くの機会や広い分野に渡る機会があること、学びのニーズに合わせながら機会が提供されていくこと、工夫の情報共有や人材の確保等がなされて活動しやすくなること等が挙げられます。

掛川市社会教育委員会の皆様には、市民が必要としている学びに現状が合致しているかの検証、並びに、こういう学びの活動をやれたらいいなということの整理をお願いします。

また、掛川市社会教育委員会流の、生涯学習の捉え直しや再定義、近年の映画の表現を借りるなら『シン・生涯学習』　となるものについて調査研究をお願いします。

２か年の調査研究の中で、市の組織機構編成に伴い事務局の変更がありました。社会の変化に対応した人づくりを推進するねらいで、社会教育委員に関する事務が生涯学習運動を推進する部へ補助執行されたものであり、令和５年度は教育委員会教育政策課、令和６年度は協働環境部生涯学習協働推進課が事務局を務めています。

Ⅱ　地域社会を取り巻く背景

１　小・中学校における３つの創る力「創像力・創合力・創律力」の育成

第２期掛川市教育振興基本計画「人づくり構想かけがわ」によると、「全国学力・学習状況調査」において、掛川市の小学校６年生、中学校３年生の平均正答率は、概ね全国平均を上回り、良好な結果を維持しています。これまでの教職員による授業改善への不断の取組と、学校組織としての努力が実を結んでいます。

また、児童生徒質問紙において、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」項目や「地域の行事に参加する」項目で、高い数値を示しています。地域に子どもの居場所があり、地域ぐるみで子どもの良さを認め、温かく育てようとする環境が整えられているためと思われます。

第２期掛川市教育振興基本計画において、これからの変化の激しい社会を生き抜く子どもを育てるためには、優秀な人づくりから有能な人づくりへの教育観の転換が必要としています。有能な人とは、よりよい未来を創るために、自らの行動に責任を持ち、他者と協働しながら、主体的に考え、新たな価値を生み出し、学び行動し続けていく人です。

そして子どもたちをこのような人に育てるためにも、掛川市の小・中学校では「３つの創る力」が育成されています。

授業の中では「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に高めていく取り組みが行われています。さらに、「自分で学ぶ」といった当事者意識をもたせつつ、主体的に学ぶことができるよう授業を構想し、教師がファシリテートすることにより、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる取り組みが行われています。すなわち、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高めて働くこと、そして、地域や社会の課題を解決し、協働のまちづくりを支える人の育成が、小・中学校で進められているところです。

今後は、この「３つの創る力」を発揮できる多様な活動の場、子どもたちが自ら未来を描ける教育活動を展開していく必要があり、そのためには学校教育だけでなく、生涯学習の理念を基にした幅広い社会教育活動が求められます。

３つの創る力

「創像力」	先を見通し、考えを収集・分析・整理・統合しながら、新たな価値を生み出していく力
「創合力」	多様な他者と力を合わせ、物事を様々な視点から見つめ、試行錯誤しながら協合する力
「創律力」	自分を見つめつつ、自覚と責任をもち、自ら課題を見つけ、学び、行動し続ける力

２　社会教育の裾野の広がり

国の第４期教育振興基本計画（令和５年６月 16 日閣議決定）では、以下の２つをコンセプトとして位置付け、総括的な基本方針に据えています。

① 2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

○ **将来の予測が困難な時代**において、未来に向けて **自らが社会の創り手**となり、課題解決などを通じて、**持続可能な社会**を維持・発展させていく。
○ **社会課題の解決**を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上等** による、**活力ある社会の実現**に向けて「**人への投資**」が必要。
○ Society5.0 で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成。

② 日本社会に根差したウェルビーイング（用語解説 P15）の向上

○ **多様な個人**それぞれが**幸せや生きがい**を感じるとともに、**地域や社会**が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方。
○ 幸福感、**学校や地域でのつながり**、利他性、協働性、**自己肯定感**、自己実現等が含まれ、協調的幸福と獲得的幸福のバランスを重視。
○ **日本発の調和と協調**に基づくウェルビーイングを発信。

また、「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」として、下記のように言及し、「学び」を通じた「つながり」づくりの必要性を説いています。

○ 地域において人々の関係を共感的・協調的なものとするためには、**社会教育による「学び」を通じて人々の「つながり」や「かかわり」を作り出し、協力し合える関係としての土壌を耕しておくことが求められ**、こうして形成された地域の人々の関係は**持続的な地域コミュニティの基盤となり、ひいては社会全体の基盤となる**。

○ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進など、社会教育の充実による地域の教育力の向上や地域コミュニティの基盤強化。

「学び」の活動が、地域コミュニティづくり・まちづくりになっていることの再認識であり、社会教育の裾野が広がっていることが現れています。

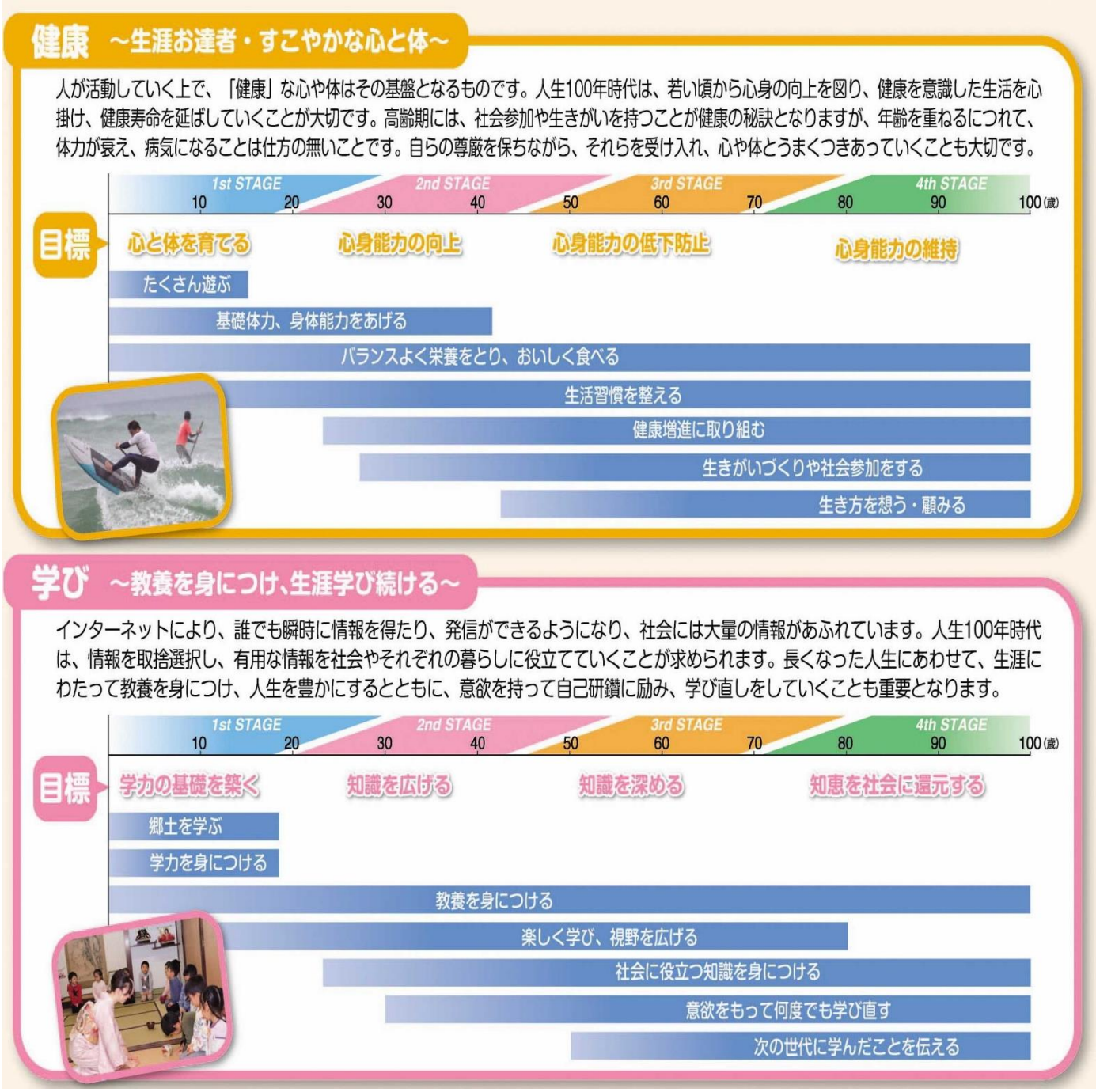
掛川市が全国に先駆けて取り組んでいる「部活動の地域展開」も、正しく子どもから大人までがつながった「学び」の活動であり、地域コミュニティづくり・まちづくりであると言えます。

３　自治体施策の見直し

平均寿命が長くなった社会の変化に合わせて、人の生き方、社会システム、自治体施策などの見直しが求められています。

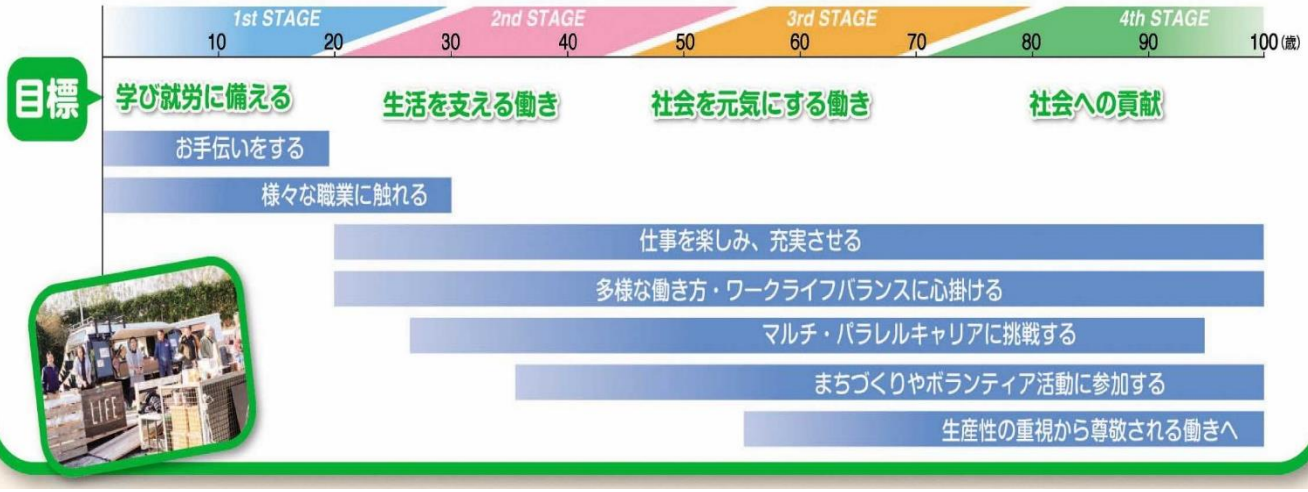
令和元年度、掛川市では人生 100 年時代を見据えて、市民の皆さんの参考にしていただいて豊かな人生の構築につなげてもらおうと、有識者や政策アドバイザーからも助言を受けて、『掛川市人生 100 年時代構想』をまとめました。

この構想では、「健康」「学び」「働き」に着目して、その目標や人生の各ステージでの取り組みがまとめられています。



働き ～生涯現役、役立ち合う多様な働き～

働くことは、その対価によって経済的に自立する目的がありますが、一方で社会とのつながりを保ち、生きがいともなる大きな存在です。
そのような意味で、人生100年時代においては、生涯現役を志し、その時々の年齢に応じた多様な働き方が求められます。
将来の自らの方向性を考えながら、自らの役割やキャリアをどうしていくかについて、絶えず自問自答していくことが大切となります。



Ⅲ　「学び」についての掛川市の地域社会の現状と課題

１　社会教育委員の意見

当委員会では、令和５年度から令和６年度にかけて委員会を 10 回開催し、「人生１００年時代を生きるための学び」について協議を重ねてきました。

協議において、諮問された「学び」とは、知識・技能に限ることなく、人々の日々の交流の中で気付かされるもの、気付かされることで自分を変えられるもの、個や集団の成長につながるもの、人生を通じて広めて深めるものという、実質的な捉え方をしました。

また、そうした「学び」をより良くしていくためには、個々の機会から議論するのではなく、交流機会を生み出している組織や地域社会に注目して議論を進めました。それらの活動が充実することで、個も集団も満足でき、市民が必要としている環境づくりになるのではいう認識です。

協議における掛川市の地域社会の現状と課題についての委員意見は、下記のとおりです。

【地域社会の現状と課題】

人材の発掘

・働き方改革、定年延長、医療・介護の負担増、ポストコロナ、通信機器の充実等様々な社会環境の変化に対応するのが困難であり、地域活動の担い手が高齢化、不足している。
　→　社会環境の変化に対応し、若年層の参画を促すような環境づくりが必要。
・10 年後、50 年後を見越した長期的な視点で、子どもたちに郷土愛や地域の担い手としての自覚と意識を醸成することが重要

活動の多様化

・継続するため、企画する側も楽しむことが大切。（例）参加しやすい種目の運動会
・興味を持って知ろうとする人を増やす仕掛け。　（例）地元に伝わる昔話の学習会
・地域、園・学校、児童生徒の家族など様々な人を巻き込むことで、企画が継続的なものになっていく。　→　地区文化祭での地区民の作品展示、活動発表・紹介。
・住民に必要とされる活動
　（例）防災・減災活動。セレモニー服の貸出。
・住民の声を拾い上げて実現する仕組み。アイデアは持っているが、発信する機会が無い方はたくさんいる。
　（例）住民アンケート。スマホでできるアンケート。
・地域の愛情を育てて、人と人が関わる活動。
・キャリア教育
　（例）ジュニアエコノミーカレッジ（小学生を対象とした起業体験プログラム）
　　スタートアップにつながる中高生の金融経済マネースクール

情報の発信

・若い層をターゲットに、SNS を活用した情報発信が重要。
・講座、イベントの情報が一か所で見ることができる共通のフォームがあると良い。
・地域の掲示板は立ち寄った時に見て、情報を得たり、見に来ている人と話をする機会になる。

ネットワークの構築

・高校生ドローン隊　（防災・地域・高校をつなぐ活動）
・ボランティア、団体、市民のマッチング。
　行政等がファシリテーターとなり、出会う場・つながる場が必要。
・様々な団体が一堂に集まり、情報交換をする場があると良い。
・団体、個人のつながりのプラットフォーム
・誰でも相談ができる窓口の設置

２　社会教育委員の事例研究　　先進事例にみる創意工夫

（１）事例１　富士市松野地区まちづくり協議会
～持続可能な地域コミュニティづくりに向けて～

意見集約の結果をもとに、令和６年３月、富士市松野地区松野地区まちづくり協議会へ視察を行いました。

富士市のまちづくり協議会は、平成 26 年度に市内 26 地区に設置され、住民主体のまちづくり活動を中心的に進めていく組織として、令和５年度で 10 年となります。

松野地区まちづくり協議会の目標は、「子育てしやすく高齢者にやさしいみんな仲良く住みよい松野」であり、住民がともに手を携え、相互に助け合って、温かい心が通う優しいまちづくりを目指しています。市内初の試みとして、地区まちづくり協議会に指定管理者制度を導入し、地域住民がまちづくりセンターの運営をしています。

【活動の特徴】

① 課題解決型のまちづくり

10 年前にまちづくり協議会ができた当初は、お祭り等のイベント開催が望まれましたが、時代の変化とともに、課題解決型事業へと転換しています。

デマンドタクシー	通常１回 300 円のところ、松野地区住民は 100 円で利用可能にした。値下げしたことで、利用者は５倍になった。 また、その自主財源を確保するため、アルミ缶回収・古紙回収スペースを、まちづくりセンターに設置した。
日曜朝市	松野地区では、家庭菜園で野菜を栽培している住民が多く、こうした人たちと高齢者世帯の買い物難民とのマッチングを図るために開催している。
子ども食堂	日曜朝市と連動して、地域の食材を使った子ども食堂を 11 月から開催した。耕作放棄地・食品ロス・貧困といった複数の地域課題解決につながるＳＤＧｓの取組として期待している。
シェアリングサービス	各地域で揃えていた草刈り機や、祭り等で使用する簡易テント等を、まちづくり協議会で一括購入し、管理・保管しながら、機材のレンタルをしている。 使い勝手の良い最新の機材を購入しているため、高齢者でも気軽に使用でき、地域全体の作業効率の向上につながっている。

② アンケートを使った、根拠に基づいた活動

令和４年度に、地区まちづくりセンターの指定管理者制度を導入し、地域住民たちの活動拠点を運営することになりました。これを機に全住民アンケートを実施しました。（回答率 81.1%）

これを契機に、住民ニーズと社会ニーズに沿った地域活動が意識され、夏祭り、秋祭り、体育祭、文化祭といった旧来の活動から、コミュニティビジネスの立ち上げや新たな住民サービスの提供といった新しい活動へと、シフトしています。

SNS を活用した 情報発信	アンケートの結果、若い世代ほど回覧板を見ていないことが判明。 若い世代へ活動を周知するため、SNS やホームページ、LINE を使った情報発信を充実させた。Instagram では定期的に情報発信し、現在は人口約 6,700 人に対し、1,500 人以上のフォロワーを獲得している。 将来的には電子回覧板として利用を目指している。
体育祭から 健康スポーツフェスへ	アンケートの結果、従来の体育祭は住民ニーズが低いことが判明。 多くの自治会からも毎年選手を選出するのが大変と意見が寄せられていたため、誰もが気軽に参加でき、楽しめる種目に変更した。 スポーツ振興の目的を果たしつつ、多くの参加者に楽しんでもらうことができた。

（２）事例２　人生卒論活動　　地域と学校が連携した生涯学習の実践の試み

県中部地区の社会教育委員等が集まる『令和６年度中部地区社会教育委員合同研修会』では、横須賀小学校で「人生卒論活動」を展開している鈴木克壽氏に講演いただきました。長い教員生活の中での経験や気づき、人生卒論活動を御紹介いただき、地域と学校が連携した生涯学習の実践の事例についてお話していただきました。

【人生卒論とは】

自身の歩んできた人生を記録として一つの資料にまとめる活動です。写真や資料を年代ごとに整理してエピソードを追記。参加者同士で紹介し、話をしながら進めています。

横須賀小学校と連携し、活動場所はパソコン室。学校は様々な人が行き交う学びの場、まさに生涯学習の場であるという鈴木氏の考えから、子どもの学びを支援する場のみならず、地域の人が集い学ぶ場として活動をしています。

集団で学習する効果のほか、学校を活動の場とすることの効果も生まれています。

① 共に学び合う

「一人では難しい・めんどう」ですが、学校に集まることで、みんなで話しながら作業ができています。活動の中で、皆から色々な話題提供があり、人生卒論の作成だけでなく、書初めをしてみたり、手作りの雨水集水器を参加者で見学したり、参加者から農作物などのお裾分けがある等、活動やつながりの輪が広がっています。

② 子どものすぐ近くで活動

学校にとって、登校時に地域の方と挨拶する機会が増えるため、地域の方と知り合うことができています。また、参加者は総合学習のゲストティーチャーや、横須賀小学校 150 周年記念事業に協力し、学校としても、子どもたちが知っている方々であるため、安心して協力をお願いできています。参加者は、学校へ通うことが楽しみになっています。

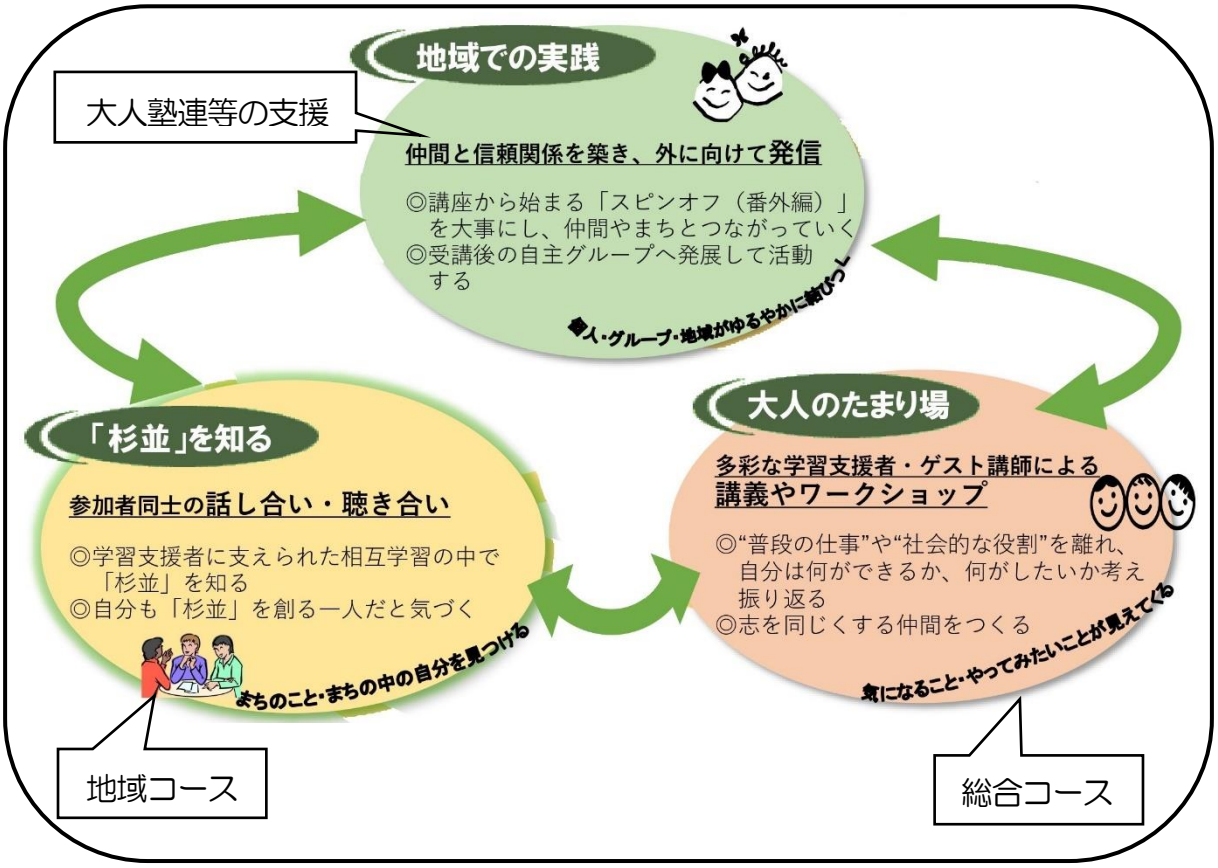
（３）事例３　杉並区立社会教育センター　すぎなみ大人塾
～自分を振り返り、社会とのつながりを見つける“大人の放課後”～

掛川市・菊川市・御前崎市の社会教育委員等が集まる『令和５年度小笠地区社会教育委員研修会』では、杉並区立社会教育センターの職員を招いて、「すぎなみ大人塾」の取組について講演していただきました。

「すぎなみ大人塾」とは、東京都杉並区教育委員会（社会教育センター）が、社会教育委員会答申を踏まえて主催する連続講座です。「自分を振り返り、社会とのつながりを見つける大人の放課後」をキャッチフレーズに、学びの場をつくっています。

総合コース （学びを通して自分や社会を見つめなおす）	多種多様な講師から学び、講義やワークショップを通じて自由な発想を育む、各々が関心を持つ社会課題を見つけるコース。
地域コース （地域の一員として地域に深く関わる後押しをする）	相互学習の中で自分の住んでいる地域を知る、自分も住んでいる地域を創る一人だと気づいてまちへ関わる後押しをするコース。
はじめの一歩コース （仲間との出会いと学びの楽しさを体験する）	大人塾が初めてという方を対象にしたコース。大人塾で大切にしている、つながる楽しさを体験して、新たな一歩を仲間と一緒に踏み出す、自分なりの一歩を見つけるコース。
すぎなみ大人塾連 （卒業年度を超えたネットワーク組織）	すぎなみ大人塾の卒業生構成される、同窓会のような組織。すぎなみ大人塾を卒業後、各地域で活躍支援やネットワークの構築、情報発信や「すぎなみフェスタ」などのイベントの企画・運営を行っている。

【すぎなみ大人塾活動のイメージ】



【活動の特徴】

① 「学習支援者」と「学習支援補助者」の配置

地域コースでは、学習支援者を中心に、学習支援補助者が支えながら、地域の団体・町会・ボランティアなどと連携しながら活動しています。

② すぎなみ大人塾連が企画・運営する「大人塾まつり」

卒業生が地域活動をお店形式で紹介し合う。各コースの成果発表の場。

③ 教室で学んだことを、地域の中で実践できるように、講座をプログラムする。

「教わる」→「気づき」、「教室の中で」→「地域の中で」と意識を変えていく構成。

④ 講座の進行度や受講者の気づきに対応して途中変更可能な、柔軟なプログラム。

（４）事例４　磐田市市民活動センター・磐田市自治デザイン課
～市民活動センターにおける　つながりづくり～

令和６年度、磐田市市民活動センターのっぽのセンター長と磐田市自治デザイン課の職員を委員会に招き、つながりづくりの活動や協働のまちづくりについてお話を伺いました。

【市民活動センターとは】

市民活動の情報の収集・発信、活動団体間の交流、新たな市民活動団体設立の支援を通じて市民活動を活性化することを目的に、平成 12 年に設置されました。

「NPO 法人磐田まちづくりネットワーク」が、市から運営を受託し、ワークピア磐田を拠点に活動しています。「思いとひとが、『出会い・つなぐ・つながる』」をキャッチコピーに、講座や相談窓口、情報発信の活動を通じて、ボランティア・団体・関係機関のつながりづくりをしています。

【つながりをつくる活動】

市民ファシリテーターの養成	市民ファシリテーターとは、対話の場にて人と人とをつなぎ、進行役と話し合いのプロセスを担う市民有志のこと。 令和４年度の養成講座の修了生たちで、市民ファシリテーターグループ「ファシリタティブ」が結成された。　このグループが、地域の防災講座やタウンミーティングなどの場において、ファシリテーターの活動をしている。
防災・減災を目指したまちづくり	依頼のあった地域へ出向いて、防災出前講座の開催や避難所運営の相談などをしている。地域にとって共通の課題である防災というテーマで話し合いの場をつくることで、地域のつながりづくりをしている。

【活動の特徴】

① つながりのプラットフォーム

NPO 法人や市民活動など、なんでも相談を受ける窓口となることや、情報の収集・発信の支援を行うことで、ボランティア・団体・関係機関がつながるためのプラットフォームとしての役割を担っています。

② テーマを通じたつながりづくり

防災・減災といった、誰にでも共通する重要な課題をテーマに話し合う場をコーディネートすることで、地域のつながりづくりを行っています。

Ⅳ　「人生１００年時代を生きるための学び」が充実するためのポイント

１　ウェルビーイングに向けた『シン・生涯学習』

当委員会では、市民が必要としている学びに現状が合致しているのかの検証、並びに、これからの社会に必要な学びについて整理をしてきました。

地域のつながりが希薄になっている中、学びのニーズは多種多様になっており、学びの機会の画一的な提供は困難であり、様々な活動のつながりの中で、学びの機会をつくることが必要です。

生涯学習の理念は、教育基本法第３条により「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と定義されています。

また、第４期教育振興基本計画（令和５年６月 16 日閣議決定）では、２つのコンセプトの１つとして、『日本社会に根差したウェルビーイングの向上』を掲げており、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを、教育を通じて向上させていくことが求められるとしています。

ニーズが多様化した現在に対応するには、ここからさらに発展し、生成 AI 等の新しい技術、DE&I（多様性・公平性・包摂性）等の新しい社会観にふれながら顕学を身に着け、時代にふさわしい価値観を地域社会から内発的に作り出し、積み上げていくことが大切と思われます。

また、地域社会の人と外の人がうまくかかわりあいながら、先人が作ったものを壊すのではなく受け止めて継承し積み上げていくことも大切と思われます。

学びが持つ、興味関心や挑戦、新たな発見といった成長の要素を大切にし、日常生活や仕事に活かしたり、他の人へ伝えたり、地域課題の解決につなげるなど、一人一人や地域社会の「人生１００年時代を生きるための学びの循環」を育むことが重要です。

ウェルビーイングとは

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

［第４期教育振興基本計画（令和５年６月 16 日閣議決定）から引用］

２　学びの循環を意識する

「人生１００年時代を生きるための学びの循環」に着目するにあたって、多重のつながりの中で「学び」の成果が連鎖していること、循環していることに気づかされます。

「学び」を、知識だけではなく、交流の中で気付かされるもの、気付かされることで自分を変えられるもの、人生を深めるものという捉え方をすると、学んだことは、一人一人の成長で終わるものではありません。つながりのある隣の人の気付きや勇気付け、交流の活性化へと発展していきます。連鎖・循環により、多くの人のウェルビーイングへと発展していきます。

理解の助けとなるよう、キーとなる「多重のつながり」「学びの循環」「一人一人の成長、交流の活性化」について、整理・考察してみました。

（1）　多重のつながり

つながりには、下記の３つが考えられます。

災害が起きたとき、隣近所で助け合い「血縁」の中で困ったことを「地縁」の人に助けてもらったり、「志縁」の友人から役立つ情報をもらって助けてもらったりするなど、一人の人は３つの縁の中に居ることを意識できると思います。

日常生活の中でも、実感できることは多いと思います。地縁や志縁の友人から教えてもらったり、逆に教えたり。その中で友人の考え方や姿勢に感化されることも、縁でつながっているからこそでしょう。

「血縁」　家族・親類の結び付き。
「地縁」　住んでいるところの結び付き。
　　自治会、祭り等。
「志縁」　テーマでの結び付き。
　　職場、学校、同窓会、趣味サークル、
　　ＮＰＯ等。

地域社会での関わりが希薄になっている現在、つながりをつくる・保つには、意識して築いていかなければならない時代を迎えています。特に「地縁」が薄れる中、地域社会はそれで大丈夫なのか懸念されています。孤立して困らないためには、まずは日頃の挨拶が大切なのかもしれません。

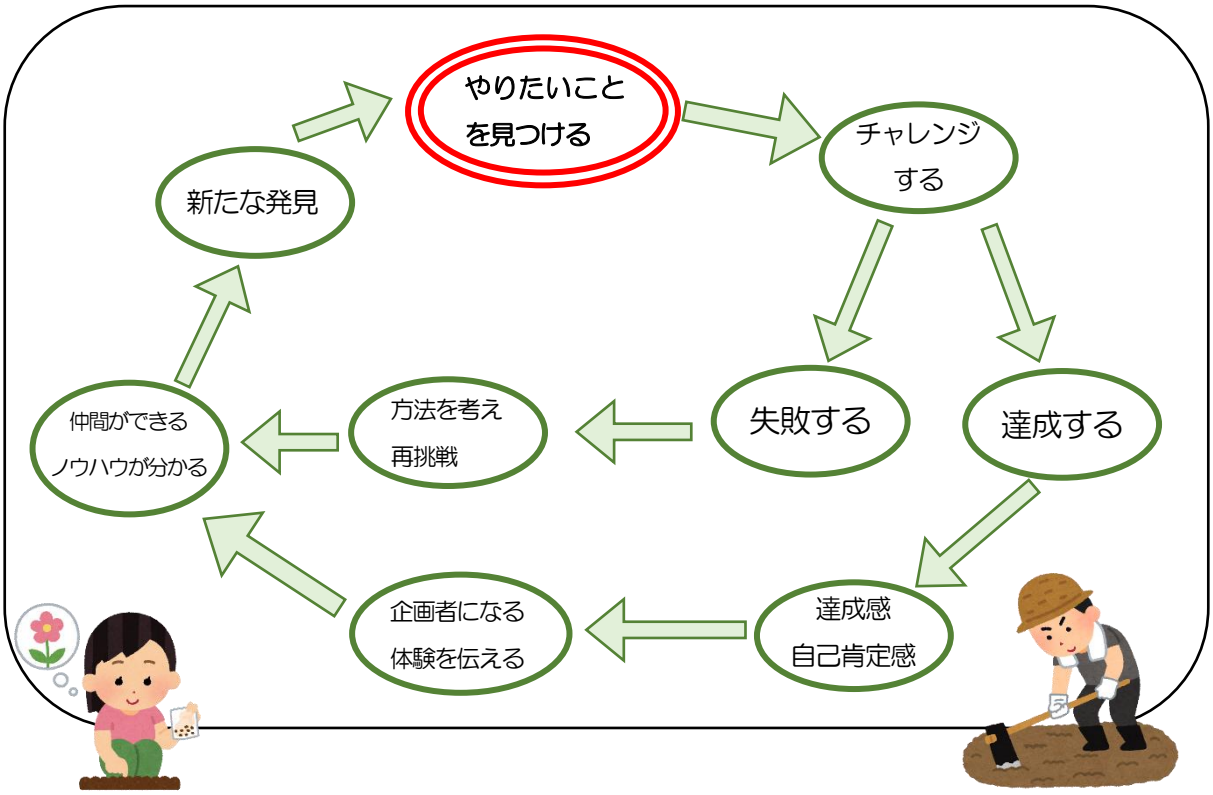
（2） 学びの循環

人は、やりたいことを見つけて挑戦し、達成したり失敗したりしながら、新たな発見をするような日常的な学びの循環の中で、経験を積み、成長します。小さな循環から始まり、だんだんと大きな循環へ成長する楽しみがあります。

また、その人の周囲に目を向けると、教えてくれる人や、場や機会をつくり支えてくれる人（先生、友人、地区の人、主催団体の人等）がいることもあります。その人にとっても、同じような学びの循環があると思います。

また、両方の立場を経験することで、学びが深くなることでしょう。

【学びのイメージ】



（3） 一人一人の成長、交流の活性化

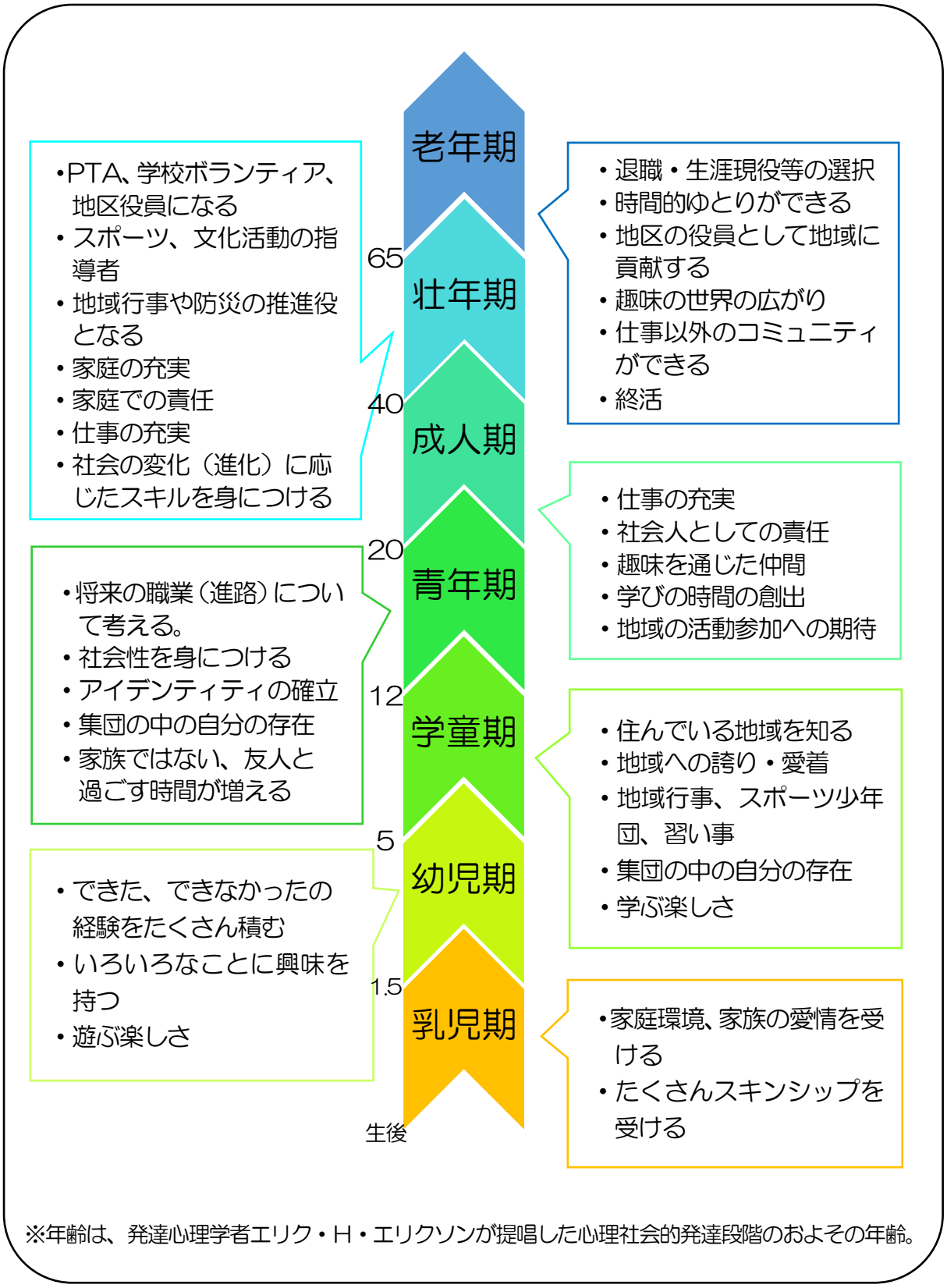
① 一人一人の成長、個人の学びの循環

人生の段階ごとの個人の学びの循環です。

子どものころ好きだったこと、楽しかったことは、大人になっても形を変えながら続いて、人に教えるまでになったり、生きがいになったりすることがあります。小さな体験が人生を通じた学びへと広がっていく発展性があります。

また、個人の中だけではなく、同世代間の横のつながりや異世代間の縦のつながりの中で、社会的に広がる発展性もあります。

【学びのステージ】



※年齢は、発達心理学者エリク・H・エリクソンが提唱した心理社会的発達段階のおよその年齢。

【学びの社会循環】

② 交流の活性化その１、団体の活性化の循環

交流の機会を生んでいる団体（地区組織、趣味サークル等）の活性化の循環です。

交流には、個人間の交流もありますが、団体がつくってくれる交流が多々あります。交流活動が盛んになり、学びのチャンスが地域社会で充実していくには、団体の活動が盛んになっていくことが大切でしょう。

団体には、個々のメンバーの学びの循環のほか、それぞれの活気やアイデア、相互の協力が団体自体を成長させ、活動を活発化させる循環もあります。

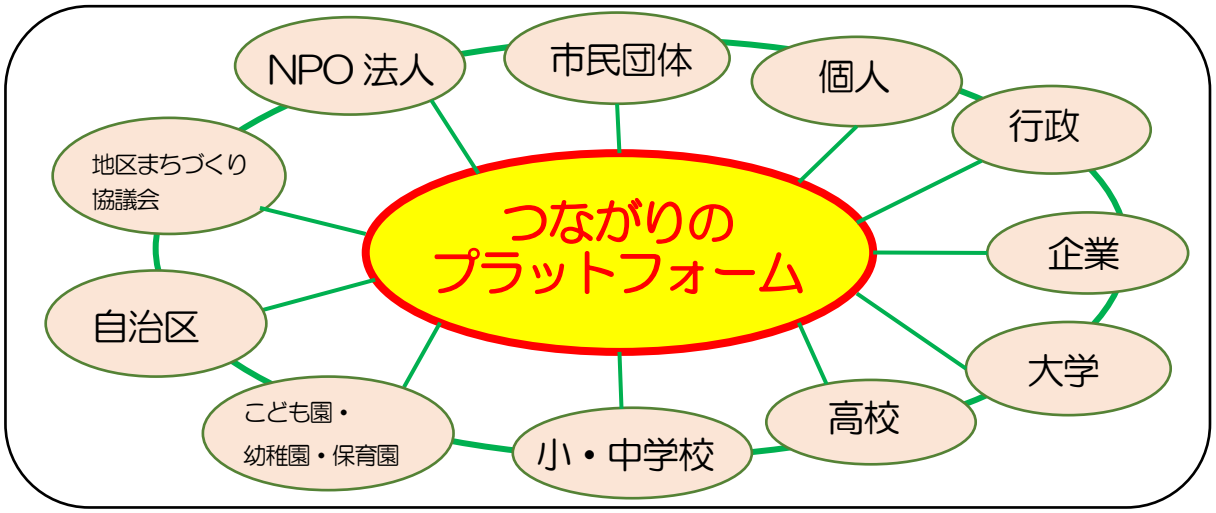
団体が活性化していくには、ニーズに応える活動へのブラッシュアップ　→ 活動に賛同した支援者・企画者となる人材が集まる　→　活動資金を集める活動や人脈が増える、といった活動・人材・財源の３面の発展が必要と思われます。

【団体の活性化の循環】

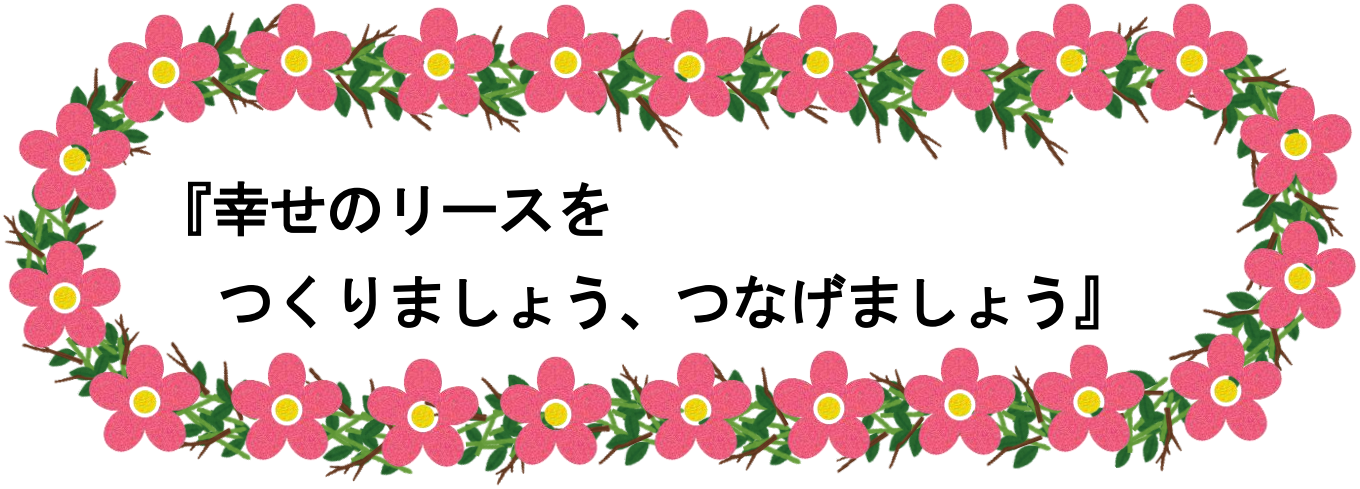
③ 交流の活性化その２、団体間の活性化の循環

団体同士が出会う、つながりのプラットフォームです。

団体の活動で困ったときは、相談相手が必要となります。つながりの中で、個々の経験やノウハウを共有し教え合う中で、成長のチャンスを得る活性化の循環です。



Ⅴ　「人生１００年時代を生きるための学び」を充実するための提言



１　［学びのススメ］

学ぶこと、気付くことは、楽しいこと。まちは学びにあふれている。
～　学びの花、見つけましょう　～

誰もが今より少しいい未来を描くものです。楽しいことを求めて、インターネットで調べてみたり、イベントに足を運んでみたり。勇気を出してサークル活動に参加してみたり、たまたま話した人からびっくりするお話を聞いたり、笑い話をしたり。

また、地元の方言やソウルフード等、身近なものの珍しさや、そこに込められた工夫・苦労等、魅力の源泉を理解することでその奥深さを感じることもあるでしょう。

ひとえに学ぶといっても様々な形があり、生活の中にも多くの学びがあります。学びや交流に共通していることは、自ら成長する機会に身を置く、能動的な行為だということです。好きなものであれば、住んでいるところがどこであれ、それを見に足を運ぶこともあるでしょう。そして、分かったことで楽しくなり、新たな発見へとつながったときに達成感を感じ、熱中できるのだと思います。

まずは、日々の生活の中にある学びを意識して、面白いなあと思うことを調べてみて、外に出て面白いことを探しに行く。面白いことをしている人に話しかけてみる。その一歩を踏み出すことが、その先の発見につながり、人生を豊かなものにしてくれるのだと思います。

次に、知ったことを親しい人に話してみる、得意なことを発信してみる。あなたが関心のあることが、他の人が関心あることかもしれません。あなたの学びは、次の人の学びへとつながると期待できることでしょう。

「参加」しているつもりが、いつしか「参画」へと昇華しているのかもしれません。

２　［学びを支えてくれる方々へ］
つながりづくり、人づくりで、幸せづくりを
～　学びの花、種まきましょう　～

市民の多様なニーズに応えていくには、行政や、地域に根付いた地縁団体、ＮＰＯ法人等のテーマに基づく志縁団体が、個々に活動するよりも、相互に情報交換したり協力したりしながら活動していく方が、効果的です。

また、活動を続ける上で、団体と中心となる人物（キーパーソン）は、必要不可欠です。ネットワークの構築や相互の情報交換、ノウハウ面の支援により、キーパーソンを含め共に活動している人たちの支援・育成が大切となります。

団体の活動が活発化することで、個人が参加・参画できるイベント等の機会も増えると見込まれ、個々のウェルビーイングも上がると見込まれます。

学びたい人がいるときに支えてくれる人がいる環境が醸成されていくためも、団体間のつながりづくりや人づくりが大切です。また、下記のような活動も大切です。

（１）個人の挑戦を支援する機会づくり
　　活動助成、団体・人材の紹介　等
（２）団体の活動を広報やノウハウ面等で支援する市民活動センターの機能充実
　　広報　→　ＳＮＳ、情報集約、コミュニティ紙発行　等
　　ノウハウ　→　団体・人材の紹介、ボランティア活動機会のあっせん、
　　アンケート支援、コミュニティビジネス等の情報共有　等
（３）個人と団体、団体同士が出会う、つながることができる、場・プラットフォームづくり
　　活動発表・意見交換の場、分野を超えて相互協力を模索する場

３　［学びが広がるまちへ］
みんなの学びが、みんなの幸せに
～　学びの花、いっぱい咲かせましょう　～

日々の生活の中にある学びから、やってみようと思うものを見つけ、一歩踏み出してみることは、自らの成長を実感し、自己肯定感を高めます。

また、学んだことを周りと共有し教え合うことは、人から必要とされる喜びと、人とのつながりを形成し、心身的・社会的な安定を生み出します。

お互いに学び合うことが循環していけば、地域全体のウェルビーイングが向上し、地域が思う、ありたいまちの姿の実現へと向かうことでしょう。

個人のウェルビーイングの実感とつながりの好循環は、新たな幸せを創出します。血縁・地縁・志縁によるつながりが交錯し、ときに融合する中で、関わりが循環していくまちづくりの様子を想像すると、市が進めている「生涯学習まちづくり」の新しい時代の姿にも思え、まちの幸せづくりに進んでいるものと思われます。

おわりに

2016年頃から、シン・シリーズと呼ばれる映画が多数上映され、大変話題になった。

そんなブームも落ち着いてきた2023年の夏、教育委員会から一つの諮問があった。生涯学習の捉え直しや再定義、「シン・生涯学習」なるものの調査研究だった。思いもよらない依頼に委員長と頭を抱えたが、社会教育委員という立場から生涯学習を考えることにした。

皆さんは生涯学習と聞くとどんなものを思い浮かべるだろうか。字面だけを見れば、生涯を通じて学び習っていくということ、すなわち一生勉強していきなさいということだ。だがそんな高尚なことを掛川市民に推奨していくのもなかなか無理がある。委員会ではまず、そもそもの生涯学習について考えてみることにした。

委員たちに共通していたのは、生涯学習とは、知識や能力を身に付けるための辛い「勉強」ではなく、自身の成長や楽しみのために関心のある事柄を「学ぶ」ということだった。この二つには実は大きな違いがある。後者は幸福感や自己肯定感を得られるだけでなく、なにより楽しいという感情が沸いてくるのだ。

興味のある講座を選択して受けられる杉並区のすぎなみ大人塾の活動は、その代表的なものと言えるだろう。楽しく講座で学びながら実は自分を見つめつつ地域社会を知り、他者とのつながりや次へのステップのための力も得られる。教えられていたのが教える側になる、参加していたのが参画するようになるなど、学びの循環があり、一石多鳥である。

そして大人塾がすごいのは、どんな活動も「楽しい」が中心にあることだ。私が印象に残っているのは、写真部が撮影した、ビートルズのあの有名なレコードジャケットを模した写真だ。杉並区の横断歩道で、部員が大真面目にビートルズのポーズをとっている、大の大人が本気で遊んでいるその姿が、この上なく楽しそうに見えたのだ。

私事だがある出来事をきっかけに、人生を嬉しいこと楽しいことばかりで埋め尽くしたいと思うようになった。それは自分だけでなく、家族や友人も。もちろん嫌だけどやらなければいけないことはある。しかし、やり遂げた時には達成感というご褒美がもらえ、挫折した時でさえ成長というプレゼントが届き、結果、幸福感を感じることができるはずだ。

「勉強」「学習」などと身構えずとも、知らず知らずのうちに日々の生活に「学び」があって、自然と成長し、楽しく過ごしていけたらと思う。そうやってカスミソウのような小さな幸せの花をたくさん集めて、大きな花束にしていくのが生涯学習なのかもしれない。

だとしたら、さらに他者と交わったり周りを気遣ったりする中で花束を沢山繋げ、大きなリースとして幸せの循環にできたら、それこそがシン・生涯学習ではないだろうか。

前答申の「おわりに」に書いた、コロナの時代は大変だったなあと笑って話したいという願いは、まだ完全に叶っていない。多少の油断と緊張を繰り返しながら流行り病とまだ向き合っている状況だ。

しかし私たちは、どうすれば楽しくなれたり幸せになれるのかを見つけ出すことが、あの頃の経験から、格段に上手になっているはず。今回の答申をヒントに、自分なりの学びを通じてぜひたくさんの幸せを繋げていっていただければと思う。

さあみんな、楽しい毎日のために、Let’ｓシン・生涯学習！

社会教育委員　副委員長　浅井　正子

令和５年度　掛川市社会教育委員会活動報告

１　第１回社会教育委員会

（１）日　時　令和５年７月 19 日（水）午後１時 30 分～
（２）会　場　掛川市立中央図書館　会議室
（３）出席者　委員 11 人、事務局５人（教育長他）
（４）内　容　①委嘱書交付
②教育長あいさつ
③委員自己紹介
④教育委員会事務局紹介
⑤社会教育委員の法・条例制度について　(説明事項)
⑥教育委員会主要事業について　(　〃　)
⑦正・副委員長の選出について　(協議事項)
⑧令和５・６年度社会教育委員会事業計画（案）について　(　〃　)
⑨各種委員について　(　〃　)
⑩研究テーマについて　(　〃　)
⑪総会・研修会等スケジュールについて　(連絡事項)
⑫８月２日（水）小笠地区社会教育委員研修会について　(　〃　)

２　小笠地区社会教育委員連絡協議会研修会

（１）日　時　令和５年８月２日（水）午後１時 20 分～
（２）場　所　掛川市文化会館シオーネ
（３）出席者　委員７人、事務局５人（教育長他）
（４）内　容　講演「自分をふり返り、社会とのつながり をみつける
“大人の放課後”～すぎなみ大人塾の取組をとおして」
杉並区教育委員会 生涯学習推進課 社会教育センター
中曽根 聡 氏、山田 しづか 氏、野本 菖 氏

３　第２回社会教育委員会

（１）日　時　令和５年９月 20 日（水）午後１時 30 分～
（２）会　場　掛川市教育委員会　２階会議室
（３）出席者　委員 14 人、事務局３人
（４）内　容　①委員長挨拶
②８月２日(水）小笠地区社会教育委員研修会　(報告事項)
③研究テーマ実現の流れについて　(協議事項)
④事例演習　(　〃　)
公民館・図書館・文化ホール・介護予防の行政支援の
の現状、課題
⑤グループワーク　研究調査したい事柄、現状、課題　(　〃　)
⑥全体ワーク　⑤の全体共有、追加意見　(　〃　)
⑦10 月 13 日（金）中部地区社会教育委員合同研修会　(連絡事項)
⑧11 月 21 日（火）～22 日（水）宇都宮市
第 54 回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会　(　〃　)
⑨11 月 29 日（水）静岡県生涯学習推進フォーラム　(　〃　)

４　中部地区社会教育委員連絡協議会合同研修会

（１）日　時　令和５年 10 月 13 日（金）午後 13 時 30 分～
（２）会　場　川根本町文化会館ホール
（３）出席者　委員３人、事務局２人
（４）内　容　①社会教育功労者紹介
　　（被表彰者：山﨑　美代子　委員）
　　②地区社会教育委員研修会報告
　　③講演「ユネスコエコパークについて」
　　川根本町資料館やまびこ職員 榎田 善行　氏

５　第３回社会教育委員会

（１）日　時　令和５年 11 月 13 日（月）午後１時 30 分～
（２）会　場　掛川市役所本庁　４階会議室１-ABC
（３）出席者　委員 12 人、事務局３人
（４）内　容　①情報提供　（協議事項）
　　②全体ワーク　（　〃　）

６　第 54 回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会

（１）日　時　令和５年 11 月 21 日（火）～11 月 22 日
（２）会　場　栃木県総合文化センター（zoom によるオンライン中継あり）
（３）出席者　委員５人、事務局３人
（４）内　容　①開会行事・表彰式
　　②記念講演「作新学院高等学校硬式野球部　甲子園優勝の軌跡
　　～『ふれあい』をとおしたつながりづくりの実践～」
　　第９８回全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園 2016）優勝校
　　作新学院高等学校教諭（硬式野球部監督）小針　崇宏　氏
　　③シンポジウム「今、改めて考える『ふれあい』をとおした
　　つながりづくり・地域づくり
　　④分科会
　　第２分科会「子ども・若者が地域課題解決に取り組む機会の充実」
　　第４分科会「地域を生かす社会教育の取組」
　　第５分科会「『命を守る』社会教育」

７　第４回社会教育委員会

（１）日　時　令和６年１月 30 日（火）午後１時 30 分～
（２）会　場　教育委員会２階会議室
（３）出席者　委員 12 人、事務局３人
（４）内　容　①11 月 18 日（土）　（報告事項）
　　掛川市生涯学習センター　第 17 回かけがわ教育の日
　　②11 月 21 日（火）～22 日（水）宇都宮市　（　〃　）
　　第 54 回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会　報告
　　③情報提供　（協議事項）
　　答申までのロードマップ
　　④全体ワーク　（　〃　）

８　第５回社会教育委員会（視察）

（１）日　時　令和６年３月 15 日（金）午後１時～
（２）会　場　松野まちづくりセンター（富士市）
（３）出席者　委員４人、事務局２人
（４）内　容　①富士市から説明（市民部まちづくり課）
　　持続可能な地域コミュニティづくりに向けた地域支援制度
　　②（一社）松野地区まちづくり協議会の活動紹介

令和６年度　掛川市社会教育委員会活動報告

１　第１回社会教育委員会

（１）日　時　令和６年６月 28 日（金）午前 10 時～
（２）会　場　掛川市教育委員会２階　会議室
（３）出席者　委員 12 人、事務局４人
（４）内　容　①委嘱書交付（新任委員）
　　②委員長あいさつ
　　③部長あいさつ
　　④委員自己紹介
　　⑤生涯学習協働推進課の事業について　(説明事項)
　　⑥令和５年度社会教育委員会の振り返り　(　〃　)
　　⑦富士市松野地区まちづくりセンター視察報告　(協議事項)
　　⑧全体ワーク　(　〃　)
　　提言の骨格・キーワードの検討
　　提言の具体策・実現に向けて必要なことの検討

２　小笠地区社会教育委員連絡協議会研修会

（１）日　時　令和６年８月２日（金）午後１時 20 分～
（２）場　所　御前崎市佐倉地区センター
（３）出席者　委員７人、事務局３人（教育長含む）
（４）内　容　講演会「子どもの未来のために、まちの未来のために」
　　特定非営利活動法人　まちと学校のみらい代表理事　竹原　和泉氏

３　第 66 回全国社会教育委員研究大会茨城大会・第 55 回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会

（１）日　時　令和６年 10 月 24 日（木）～25 日（木）
（２）会　場　水戸市民会館
（３）出席者　委員１人、事務局１人
（４）内　容　①記念講演「あなたの知らない名字の世界
　　～名字には隠れた日本文化がある～」
　　名字研究家　髙信　幸男　氏
　　②シンポジウム
　　テーマ「子どもたちの成長を支えるために社会教育は何ができるか」
　　③分科会
　　第３分科会「若者の主体的活動の推進」
　　第５分科会「社会教育委員の役割」

４　第２回社会教育委員会
（１）日　時　令和６年 11 月 18 日（月）午前 10 時～
（２）会　場　掛川市教育委員会２階　会議室
（３）出席者　委員 12 人、事務局３人
（４）内　容　①研修会「磐田市協働のまちづくりについて」
「磐田市市民活動センターにおける“つながりづくり”
～人材育成事業～」
磐田市市民活動センターのっぽ　センター長　三輪　邦子　氏
磐田市自治デザイン課　藤　大地　氏
②質問・交流
③感想共有

５　中部地区社会教育委員連絡協議会合同研修会
（１）日　時　令和６年 11 月 20 日（水）午後１時 30 分～
（２）会　場　大日本報徳社　大講堂（掛川市）
（３）出席者　委員 10 人、事務局４人
（４）内　容　①社会教育功労者表彰
②地区社会教育委員研修会報告
③講演会「学校と連携した生涯学習の実践～人生卒論活動への試み～」
鈴木　克壽　氏

６　第３回社会教育委員会
（１）日　時　令和６年 12 月 24 日（火）午前 10 時
（２）会　場　中央図書館会議室
（３）出席者　委員 10 人、事務局３人
（４）内　容　①令和５・６年度社会教育委員会　答申について（案）　（説明事項）
②答申案について　（協議事項）

７　第４回社会教育委員会
（１）日　時　令和７年１月 27 日（月）午前 10 時 00 分～
（２）会　場　掛川市教育委員会２階　会議室
（３）出席者　委員 13 人、事務局３人
（４）内　容　①令和５・６年度社会教育委員会　答申について（案）　（説明事項）
②答申案について　（協議事項）

８　教育委員との意見交換会
（１）日　時　令和７年２月 26 日（水）午後 15 時 30 分～
（２）会　場　掛川市教育委員会２階　教育委員会室
（３）出席者　委員２人、教育委員　人、事務局５人（教育長他）
（４）内　容　答申要旨の説明、意見交換

９　第５回社会教育委員会
（１）日　時　　令和７年３月　日（　）　時　分～
（２）会　場　　掛川市教育委員会２階　会議室
（３）出席者　　委員　人、事務局５人（教育長他）
（４）内　容　　社会教育委員会から市教育委員会への答申提出
「人生１００年時代を生きるための学びについて」

掛 川 市 社 会 教 育 委 員

任期２年（令和５年４月１日～令和７年３月31日）

【令和５年度】　（敬称略）

No.	役　職	氏　　名	備　　考
1	委員長	きんぱら　よしあき 金 原　義 明	学識経験者
2	副委員長	あさい　まさこ 浅 井　正 子	社会教育関係者
3	委　員	てらだ　ゆきひろ 寺 田　幸 弘	学識経験者 (市議会文教厚生委員長)
4	委　員	しんば　たけし 榛 葉　武 史	学識経験者
5	委　員	むらた　けいこ 村 田　敬 子	社会教育関係者
6	委　員	みうら　はるお 三 浦 治 雄	社会教育関係者
7	委　員	おおたに　みか 大 谷　美 佳	社会教育関係者
8	委　員	はが　さおり 芳 賀　早 織	社会教育関係者
9	委　員	すずき　つとむ 鈴　木　勉	社会教育関係者 （スポーツ協会選出）
10	委　員	なかだ　みちお 中 田 美 智 雄	社会教育関係者 （文化協会選出）
11	委　員	みやいし　しんじ 宮 石　慎 治	社会教育関係者 （青年会議所 シニアクラブ選出）
12	委　員	おおい　ひろみ 大 井 弘 美	家庭教育関係者
13	委　員	すずき　まさみち 鈴 木　雅 道	学校教育関係者 （高等学校長代表）
14	委　員	さわざき　しのぶ 澤　﨑　忍	学校教育関係者 （校長会選出）
15	委　員	さの　ちえこ 佐 野 千 枝 子	学校教育関係者 （園長会選出）

【令和６年度】　（敬称略）

No.	役　職	氏　　名	備　　考
1	委員長	きんぱら　よしあき 金 原　義 明	学識経験者
2	副委員長	あさい　まさこ 浅 井　正 子	社会教育関係者
3	委　員	てらだ　ゆきひろ 寺 田　幸 弘	学識経験者 (市議会文教厚生委員長)
4	委　員	しんば　たけし 榛 葉　武 史	学識経験者
5	委　員	むらた　けいこ 村 田　敬 子	社会教育関係者
6	委　員	みうら　はるお 三 浦 治 雄	社会教育関係者
7	委　員	おおたに　みか 大 谷　美 佳	社会教育関係者
8	委　員	はが　さおり 芳 賀　早 織	社会教育関係者
9	委　員	すずき　つとむ 鈴　木　勉	社会教育関係者 （スポーツ協会選出）
10	委　員	なかだ　みちお 中 田 美 智 雄	社会教育関係者 （文化協会選出）
11	委　員	にしな　いつじ 仁 科　逸 治	社会教育関係者 （青年会議所 シニアクラブ選出）
12	委　員	おおい　ひろみ 大 井 弘 美	家庭教育関係者
13	委　員	なかむら　ひろし 中 村　博 志	学校教育関係者 （高等学校長代表）
14	委　員	さわざき　しのぶ 澤　﨑　忍	学校教育関係者 （校長会選出）
15	委　員	さの　ちえこ 佐 野 千 枝 子	学校教育関係者 （園長会選出）